

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1110
施設名	東進ポップキッズ大塚キャンパス
施設所在地	豊島区北大塚3-31-3
法人名	社会福祉法人東進

1. 活動のテーマ

<テーマ>

言葉

<テーマの設定理由>

当園では、日本語はもちろん、英語や中国語など外国語にふれる活動も大切にしていることから、「言葉」をテーマとして設定しました。言葉は、自分の思いや感情などを他者に伝えるために必要不可欠なものであり、子どもたちは日々、絵本の読み聞かせやフラッシュカード、早口言葉などに楽しく取り組んでいることから、ひらがなの読み書き、英語や中国語を通して、子どもたちの言葉への興味・関心をさらに大きく高める活動を考えました。

2. 活動スケジュール

4月～1月：英語・中国語のカリキュラムでの取り組み
年中組の言葉遊びのカリキュラムでの取り組み
2月：英語・中国語のカリキュラムでの取り組み
3月：英語・中国語のカリキュラムでの取り組み
年長組の中国語発表会の開催

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・電子黒板
- ・歌・ダンスの音源、動画教材、絵カード
- ・ホワイトボード、ホワイトボード用マーカー・イレイザー
- ・ひらがなのテキスト、鉛筆、消しゴム、ペンケース、鉛筆削り
- ・机、椅子

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「英語（中国語）で何て言うの?」「ひらがなになってどう書くの?」という子どもたちの興味・関心をもとに、英語・中国語の活動や、年中組の言葉遊びを行いました。

英語・中国語のカリキュラムでは、ネイティブスピーカーの講師の発音を真似したり、電子黒板を活用した動画教材の視聴を通して英語・中国語を学びました。英語・中国語の歌を歌ったり、英語・中国語の音楽でダンスを踊ったりして、遊びの中で楽しく英語・中国語にふれました。年長組は、中国語のカリキュラムの集大成として、3月下旬に中国語発表会を開催し、保護者の前で歌や家族の紹介、劇を中国語で披露しました。

年中組の言葉遊びでは、専用のテキスト教材を使用し、運筆や毎回4~5個のひらがなの形の特徴や書き順を知り、実際に書いてみました。最終回では、自分の名前を書くことにチャレンジしました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

●英語：

年齢や乗り物、野菜、公園の遊具など、いろいろな英単語を意欲的に発音していました。ゲームや歌、絵カードなどを通して英語にふれる活動が、子どもたちに特に好評で、積極的に参加して楽しんでいました。

英語で答えるクイズでは、積極的に答えようとする姿が見られ、英語を通じた遊びや活動を楽しんでいました。楽器の単語を紹介するときには、それぞれの楽器のリアルな音を流すと、さらに興味を持って単語を覚えていました。年長組では、「Good Morning!」「Yes!」など日常会話に英語を取り入れて保育者と会話を楽しむ子もいて、学んだ言葉を日常生活の中で使おうとする主体的な姿が見られました。乳児クラスもいろいろな教材や環境で英語にふれ、英語で言おうとする姿が見られました。

●中国語：

季節や花、挨拶、家族、天気、色、数など、身近なものの中国語での言い方を知り、積極的に真似して発音を楽しんでいました。歌やダンス、動画教材、絵本の読み聞かせ、工作など、いろいろな活動を通して、中国語に興味を持っていました。

中でも、幼児クラスは、歌やダンス、動画教材を使った活動を特に好み、積極的に真似して中国語にふれる活動を楽しんでいました。年長組は、絵本の内容を理解し、絵本に出てくるフレーズを真似して、子どもたち同士で積極的に言い合う姿も見られました。

乳児クラスは、絵本やダンス、絵カード、手遊び歌に興味を示す子が多かったです。動画を見て真似をしたり、手遊び歌と一緒に手や身体を動かして、遊びながら中国語にふれていました。先生の発音を繰り返したり、質問に答えたり、絵カードを見せると知っている単語を自分から発音する姿も見られ、中国語でのやりとりを楽しんでいました。顔の部位に関する中国語の動画を視聴した際には、「おもしろいね」と感想を伝えてくれた子もいました。

●言葉遊び（年中組）：

鉛筆の正しい持ち方を伝えると、「こうかなあ」「合ってるかなあ」と言いながら、見本を見て真似する姿が見られました。「先生、こう？」と保育者に確認してきた子に「合ってるよ」とほめると、とても喜んでいました。書くことに消極的な子もいましたが、意欲的に取り組んでいる子の姿を見て、少しずつ書こうという気持ちが芽生えていたようです。

活動を重ねるにつれて、正しい鉛筆の持ち方を自ら意識して書いたり、子どもたちが自分の好きなひらがなを書いて見せてくれたりするようになりました。保育者が電子黒板に子どもたちの名前を書くと、「どうやって書くのかなあ」と言いながら、見本を見て一生懸命自分の名前を一文字一文字丁寧に書き、「書けた！」とうれしそうに見せてくれる子、文字の間隔や升目を意識して書こうとする子など、「一文字」書ける喜びが「言葉」を書く意欲へと広がっていることがうかがえました。ひらがなを書くことに慣れてくると、「文字を書くの楽しい！」という声が聞こえてくるようになりました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

知らない言葉や発音であっても、遊びの中で楽しみながらふれることで、子どもたちは不安感や消極的な姿を見せることなく、意欲的に活動に参加していました。新しい言葉を覚えていくスピードや、それを自信につなげていく姿から、乳幼児期の高い吸収力を改めて実感しました。

また、講師による生の発音や臨場感のある活動は、子どもたちの好奇心を大きく刺激していました。それに加えて、動画教材など現代的なツールを活用することで、外国語への興味・関心をより高める相乗効果が見られました。

保護者からは、「言える単語が増えた」「自分の名前を書くのが上手になった」「新しく覚えた言葉をうれしそうに話してくれる」といった声が聞かれました。園で楽しく学んだことを家庭でも自信を持って表現している様子が見え、子どもたちの言語習得への意欲や主体性の育ちを感じています。